

授 業 科目名	【 G 】	経済学Ⅰ	区 分		開講年次	【 G 】 1	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	経済学Ⅰ	その他参照			【 H 】 1		【 H 】 2
科目区分	基本科目：【 G・H 】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・一・公民・一）							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための（中社必修・一・公民必修・一）科目						【 H 】 教員の免許状取得のための（中社必修・一・公民必修・一）科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項：「社会学、経済学」（中一種免社会）							
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」（高一種免公民）							
サブ タイトル	問題演習を通じて経済の仕組みを理解する					担当者	小川 竜明	
授業概要	【概要】	これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、過去に教員採用試験や公務員採用試験で出題された問題を用いながら経済理論を学習していくスタイルをとる。過去問を使うことで、試験に合格するために暗記すべきものが明確になる。 次の(1)～(4)を達成するため、予習（各回の「ワークシート」にある問題を解いてくること）を必須とする。 (1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。 (2) 授業では、予習の段階で「誤解していたもの」や「わかったつもりでいたもの」、「わからなかったもの」に重きを置いて説明を聞くことができる。 (3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。 (4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。 「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。 なお、経済学Ⅰでは、「金融、財政、貿易や外国為替等の国際経済」以外を学ぶ。						
	【到達目標】	・経済の仕組みがわかり、さまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。 ・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。 ・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。						
履修条件	授業中はスマートフォンやタブレット端末、パソコンなどには一切触れず、真摯な姿勢で授業に臨む意志があり、予習と復習を欠かさず行うこと、且つ次の(1)、(2)の両方またはいずれかに該当する者。 (1)教員、国家公務員または地方公務員（警察官、消防官を含む）を志し、採用試験に合格するためならば、いかなる努力も惜しまない者。 (2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。							
アクティブ ラーニングの 方法	【○】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP（ディプロマ・ポリシー）①		－（当てはまらない）					
	DP（ディプロマ・ポリシー）②		－（当てはまらない）					
	DP（ディプロマ・ポリシー）③		◎（よく当てはまる）					
	DP（ディプロマ・ポリシー）④		－（当てはまらない）					
他科目との 関連性	①あらかじめ履修を済ませてほしい科目：特になし。 ②同時に履修することが望ましい科目：経済学Ⅱ ③当該科目を履修した後で履修してほしい科目：国際経済論Ⅰ、国際経済論Ⅱ							
教科書	教科書は使用しない。 教材（問題を掲載したワークシート）や資料（経済の仕組みや問題の解説等を載せた授業で使用するもの）は全てGoogle Classroomを通じて配信する。 毎回授業が始まる前にGoogle Classroomにアクセスし各自で印刷をして授業に持ってくること（教室でこれらを配付することは無い）。 教材や資料は、原則として授業後1週間が経過するとGoogle Classroomでの公開を取り消すので、小忠実にGoogle Classroomにアクセスすること。							
参考書	・戸崎肇『実践経済学―変動期を生きぬくために―』芦書房、1999年。 ・田内学『きみのお金は誰のため』東洋経済新報社、2023年。 その他、授業内で適宜紹介する。							
評価方法	下記の(1)小テストまたはミニレポート（配点36）、(2)学習到達度確認テスト（配点64）の結果を総合的に勘案し評価する。 (1)小テストまたはミニレポートは、第2回から第13回の授業時に行う（3点×12回、基本的に答案の出来により0点～3点を付与）。 ・小テストおよびミニレポートはその日に学習した内容の理解度を測るものである。 (2)学習到達度確認テストは、授業で学習した経済理論について論述する（各問の配点に基づき正答に応じて得点を付与）。 小テストおよび学習到達度確認テストは、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みをすべて「不可」とする。							
フィードバック 方法	小テスト（ミニレポート）のうち、誤答（誤解）が多いものについては別途解説を行う。 解説が多くなると、その分だけ下の授業内容は変更することになる。							
評価基準	・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。 ・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。 ・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 ・学習到達度確認テストに欠席するなど、評価不能の場合は「F」とする。							

授 業	【 G 】	経済学 I	区 分	開講年次	【 G 】 1	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】	経済学 I	その他参照		【 H 】 1		【 H 】 2
授業回数	授業内容						
1	Part.0【オリエンテーション】、Part.1【経済学を学ぶ上での仕込み】(1)―経済学に特有の「費用」の考え方を押さえる						
	予 習： シラバスを熟読し疑問に思ったことをメモしておく(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
2	Part.1【経済学を学ぶ上での仕込み】(2)―経済主体である「家計」「企業」「政府」の関係を理解する						
	予 習： ワークシート[2]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
3	Part.2【GDP】(1)―「付加価値」の意味を正しく理解する						
	予 習： ワークシート[3]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
4	Part.2【GDP】(2)―「フロー」と「ストック」の違いを押さえ、GDPに計上するものと(GDPに)計上しないものに分ける						
	予 習： ワークシート[4]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
5	Part.2【GDP】(3)―「三面等価の原則」を理解する その1:生産面、支出面						
	予 習： ワークシート[5]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
6	Part.2【GDP】(4)―「三面等価の原則」を理解する その2:分配面						
	予 習： ワークシート[6]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
7	Part.2【GDP】(5)―「国内」と「国民」の違いを正しく理解し、GDP、GNI、NNI、NIの金額(値)を求める						
	予 習： ワークシート[7]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
8	Part.3【(総)需要と(総)供給】(1)―需要と供給の意味を再確認し、経済学に登場するグラフの見方を押さえる						
	予 習： ワークシート[8]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
9	Part.3【(総)需要と(総)供給】(2)―需要曲線と供給曲線を用いて価格が決まる仕組みを理解し、「供給曲線上の点の移動」と「供給曲線のシフト」の違いを押さえる						
	予 習： ワークシート[9]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
10	Part.3【(総)需要と(総)供給】(3)―「需要曲線上の点の移動」と「需要曲線のシフト」の違いを押さえ、需要の価格弾力性(需要曲線の勾配)の意味を理解する						
	予 習： ワークシート[10]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
11	Part.3【(総)需要と(総)供給】(4)―総需要と総供給の意味を押さえ、総需要曲線と総供給曲線を用いて物価が決まる仕組みを理解する						
	予 習： ワークシート[11]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
12	Part.3【(総)需要と(総)供給】(5)―物価の動きを示す3つの指標「GDPデフレーター」「消費者物価(指数)」「(国内)企業物価(指数)」の違いを押さえる						
	予 習： ワークシート[12]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
13	Part.3【(総)需要と(総)供給】(6)―インフレーションの意味を正しく理解し、インフレーションが発生する仕組みを理解する						
	予 習： ワークシート[13]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
14	Part.4【講義のまとめと応用】(1)―景気サイクル(4つの局面)を理解し、直近40年(1985年～2024年)のGDPと物価の推移から日本経済を読み解く						
	予 習： ワークシート[14]の問題を解く(15分) 復 習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
15	Part.4【講義のまとめと応用】(2)―直近40年(1985年～2024年)のGDPと物価の推移から日本経済を読み解く(30分)、学習到達度確認テスト(60分)						
	予 習： これまで学習した内容を振り返る(180分) 復 習： この授業で身につけたものを反芻する						
その他	・新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。 ・真摯に授業を受ける学生の志気を下げるとような行為(教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、スマートフォンやタブレット端末等の電子機器の使用など)を行った者に対しては退室を命じるなど、厳正に対処する。 ※Gカリ:【選択必修(ア)】						